≪学習問題≫

赤色のはこには、ミカンが24こ入っています。赤色のはこには、白色のはこより6こおおく入っています。白色のはこには、なんこ入っていますか。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・順思考で，もとになる数たすいくつや引くいくつが求める数になるというたし算や引き算の文章問題を解くことができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・「６個多い」ことは，逆に考えれば他方が「６個少ない」ことだという，逆思考による読み替えをする。

○共同追究でのゆさぶり

・左側がそろっていないテープ図を提示し，比較検討する。

○ゆさぶりに対応する経験

・長さの学習において，左側が揃っていないと比べられないことを具体的な操作を通して理解している。

教材研究ノート№2-A-16

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

クリア課題

②見通し:「赤色の箱には，白色の箱より6個多く入っています」では，白色の箱に入っている数が分からない。→「白色の箱には，赤色の箱より６個少なく入っています」に直せば計算できる。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:白色のはこに入っているミカンの数ぶんをテープ図にあらわして求めよう。

③個人追究: 「白色のはこには，赤色のはこより６こなく入っています」と読み替えてテープ図に表す。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「テープ図をもとに白色の箱に入っているミカンの数がいくつになるのか説明しよう」→「白色の箱に入っているミカンは，赤色の箱に入っているミカン24個より６個少ない」

④共同追究後半（思考を深める）

「このテープ図でも同じように説明できるかな？」（左側がそろっていないテープ図を提示する）

→「左側がそろっていないと比べられないよ」

「違いの６個を正しく表すことができないよ」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・「赤色の箱には，白色の箱より6個多く入っています」を「白色の箱には，赤色の箱より６個少なく入っています」に直せば，今まで解いていた問題と同じように考えることができる。

・テープ図は，多い少ないを比べたり違いをはっきりさせたりするために左側をそろえる。

⑥定着･活用問題

赤色のはこには，ミカンが42こ入っています。赤色のはこには，白色のはこより7こおおく入っています。白色のはこには，青色のはこより8こおおく入っています。青色のはこには，なんこ入っていますか。

つくった5の段の九九を使って，5×7の式になる問題をつくり，答えを求めなさい。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・逆思考の問題は，問題の文脈に表された増減の言葉とは逆に思考を働かせていくところにつまずきが生じる。何が分かっていて何を求めるか，また，大小関係はどうなるのかを的確につかませる。

・テープ図は思考の手助けである。差の場合は，2本のテープに表した方が，数量の関係をとらえやすい。まず，「図を見て考える」ように促した後，「図をかいて考える」ように段階的にテープ図を活用する力を伸ばしたい。

【板書計画】